

2023年3月31日

一般社団法人日本独文学会 2022年度事業報告書

一般社団法人日本独文学会は2022年度に次の事業を行った。

1. 春季（対面）及び秋季研究発表会（オンライン）の開催

- 2022年5月7日、8日両日、一般社団法人日本独文学会第4回総会および春季研究発表会が、立教大学池袋キャンパスにおいて対面で開催され、活発な質疑応答および意見交換が行われた。研究発表会の内訳はシンポジウム2本、口頭発表9本、ポスター発表2本、ブース発表1本であった。また、総会、第62回ドイツ語学文学振興会賞授賞式、ドイツ語教育部会総会および講演会が開催された。会場には、朝日出版社・郁文堂・三修社・第三書房・同学社・白水社・ひつじ書房各書店によるブースが設けられた。
- 2022年秋季研究発表会は10月8日および9日にZoomによるオンラインで開催された。従来対面で行われてきた秋季研究発表会と同様、1日目は11:50~17:30、2日目は10:00~13:10に開催された。研究発表会の内訳はシンポジウム2本、口頭発表7本、ポスター発表1本、ブース発表1本であった。また、第19回日本独文学会・DAAD賞授賞式およびドイツ語教育部会総会が行われた。さらに、朝日出版社・郁文堂・三修社・同学社・白水社・ひつじ書房各書店によるオンラインブースが設けられた。1日目のプログラム終了後の18:00~20:00には、オンラインツールoViceを用いて懇親会が開催された。

📄 「決算報告書（第4期）」損益計算書【売上高】参加費収入、受取その他
助成金、および【販売費及び一般管理費】総会・研究発表会開催費

2. 機関誌『ドイツ文学』／„Neue Beiträge zur Germanistik“の発行（年2冊、うち1冊は欧文誌）

- 2021年度下半期に刊行が予定されていた164号（和欧混合誌）を2022年7月に刊行した。特集「技術／テクノロジー」7篇、一般投稿の文学・文化部門論文3篇、語学部門2篇、書評・新刊紹介8篇を掲載した。
- 2022年度上半期に刊行が予定されていた165号（欧文誌）は大幅に予定が遅延したが、初稿の入稿を終えており、2023年度上半期に刊行する予定である。特集„Literatur/Geschichte“9篇、一般投稿（文学・文化部門論文1篇、語学部門論文1篇、教授法部門1篇、書評1篇）。
- 2022年度下半期に刊行が予定されていた166号（和欧混合誌）は間もなく入稿の見通しであり、2023年度上半期に刊行する予定である。特集「Perspektive/視点とドイツ語研究」6篇、一般投稿（文学文化2篇、書評・新刊紹介1篇）。

☞ 「決算報告書（第4期）」損益計算書【売上高】機関誌売上収入，および

【販売費及び一般管理費】機関誌作成費，通信運搬費（ただし，2021年3月に刊行されていた163号の支払い・配布の費用も含む。また，165号・166号の支払い・配布は上述の事情により2023年度回し）

3. 文化ゼミナール・語学ゼミナール・教授法ゼミナールの開催及びその記録論集の発行
 - ・ 第62回ドイツ文化ゼミナールが2023年3月7日～11日に慶應義塾大学日吉キャンパスで開催された。講師は Joseph Vogl 教授（ベルリン・フンボルト大学），テーマは Literatur, Ästhetik und Ökonomie – Poetiken des Wissens で，参加者は50名であった。また，2020・2021年度に実施された文化ゼミナール・オンライン代替企画の論集が„Akten des JGG-Kulturseminars“の第2号として2023年3月に J-Stage で公開された。
 - ・ 第48回語学ゼミナールが2022年8月29日（月）～9月1日（木）に多摩永山情報教育センターで行われた。講師は Josef Bayer 教授（コンスタンツ大学），総合テーマは „Probleme der deutschen Syntax: Wortstellung, Kasus, Paradoxien“, 参加者は32名であった。また語学ゼミナール論集（2021年オンライン実施分，招待講師 Josef Bayer 教授）として，„Linguisten-Seminar: Forum japanisch-germanistischer Sprachforschung“ 第5号が2023年2月に刊行された。
 - ・ 第27回教授法ゼミナールが，多摩永山情報教育センター（東京都多摩市）にて2023年3月15日から17日まで対面で開催された。講師は Sandra Ballweg 教授（パダボーン大学），テーマは Texte beurteilen – Überlegung zum Umgang mit Schreibprodukten im DaF-Unterricht，参加者は21名であった。また，第24・25回 DaF ゼミ論集 „Erträge des JGG-Seminars für Deutsch als Fremdsprache“ 第2号が2023年2月に J-Stage 上で刊行された。

☞ 「決算報告書（第4期）」損益計算書【売上高】受取 DAAD 助成金，

受取その他助成金，および【販売費及び一般管理費】ゼミナール運営費

4. ドイツ語教員養成・研修講座の実施

- ・ ドイツ語教育部会，東京ドイツ文化センターとの共催で開催している「ドイツ語教員養成・研修講座」は，2022年度は，2021年度秋開講前期分の中の4回のワークショップと，同じく後期分の中の4回のワークショップが行われた。また10月のモジュール8「ランデスクンデと異文化理解」では，初めての試みとして過去に提供されていなかったモジュールに講座修了生の参加を認め，6名の参加者にモジュール修了証を発行した。

☞ 「決算報告書（第4期）」【販売費及び一般管理費】ゼミナール運営費

5. 日本独文学会・DAAD 賞の授与

- ・ 第 19 回日本独文学会・DAAD 賞（2020 年度刊行分）の授賞式を 2022 年 10 月 8 日オンラインで挙行了。
- ・ 第 20 回日本独文学会・DAAD 賞（2021 年度刊行分）の審査を行った。
📄 「決算報告書（第 4 期）」損益計算書【売上高】受取その他助成金，
および【販売費及び一般管理費】支払い学会賞費

6. 日本独文学会研究叢書の発行（学会ウェブサイトによる電子出版）

- ・ 2021 年度春季および秋季研究発表会でおこなわれたシンポジウムから計 3 件が研究叢書として刊行された。

149 号：「アヴァンギャルドの運動表象」

編集者：小松原 由理

執筆者：小松原 由理，西岡 あかね，山口 庸子，柴田 隆子

（2022 年 5 月 7 日発行）

150 号：「複合判断・単独判断とドイツ語文法 一定性を軸に一」

編集者：藤縄 康弘

執筆者：大喜 祐太，吉田 光演，筒井 友弥，藤縄 康弘，田中 慎

（2022 年 10 月 8 日発行）

151 号：「グリム・メディア・対話 ー変容し活用されるドイツの民間伝承ー」

編集者：野口 芳子

執筆者：蚊野 千尋，野口 芳子，横道 誠


（2022 年 10 月 8 日発行）

- ・ 研究叢書のオンライン化に伴い，刊行規程の補足を行った。

7. その他のドイツ語，ドイツ文学及びドイツ語教育の研究及び普及に資する事業

- ・ 2022 年度ドイツ語論文執筆ワークショップは，2022 年 12 月 3 日（土）と 12 月 4 日（日）の 2 日間の日程で，立教大学（池袋キャンパス）で対面開催された。今回のワークショップでは，当初予定されていた DAAD からの資金援助はなく，懇親会の開催も見送られた。講師は，井出万秀氏（立教大学），マヌエル・クラウス氏（早稲田大学），大田浩司氏（帝京大学）が，実行委員は，池中愛海氏（慶應義塾大学），平野遥海氏（東京大学），山中慎太郎氏（東京大学），若山真理子氏（東京大学），が務めた。今年度のワークショップには，大学院生，若手・中堅の研究者を中心に，両日合わせて 9 名（いずれも独文学会会員）が参加した。

- 従来「国立情報学研究所学術研究データベース・リポジトリ」で「文献情報データベース」を公開していたが、同研究所のリポジトリが 2020 年 3 月末でサービスを終了したことから、この検索システムを本学会ホームページに移築した (<https://www.jgg.jp/jggdb/>)。

 「決算報告書（第 4 期）」【販売費及び一般管理費】特別事業運営費